

特 12

456

訂正  
親世流謡別能千八番

村  
土  
三  
景

9



もたふとくして人あはれ  
草美あけくしとせしむる  
つ行の程もあへ事ぬらみきり  
きりく<sup>口キ</sup>是れ也鄴縣の山  
きくは峽谷にも薬の水あて  
れく遠くあ上り事とあは  
山段<sup>山</sup>遠くも霜侵す紅樹水

栄也として露田の昔菊あは面白  
あおくもあ<sup>口キ</sup>思あはれ成  
席りの内もあはれなり  
童子あはれとあはれなり  
我の周の代はあはれなり者也  
あはれなりはあはれなり  
あはれなり<sup>口キ</sup>是れ漢の皇帝の臣

下なるは樂の樂の矢くちかたの  
の宣旨と書つたつたつたつたつ  
復周の代つたつたつたつたつ  
そはなつたつたつたつたつたつ  
事つたつたつたつたつたつ  
枕と報つたつたつたつたつたつ  
とも我君のつたつたつたつたつ

又母文と書つたつたつたつたつ  
ハ我此のつたつたつたつたつ  
文の寫流つたつたつたつたつ  
水やあつたつたつたつたつたつ  
く神浦つたつたつたつたつたつ  
つたつたつたつたつたつたつ  
御枕のつたつたつたつたつたつ

かきつばたのふりかへりておのれをさすり  
は花の妙文を拜しきりて  
舞樂を養ひつづけたれ人の慰  
めむと 昔 西よむらひしてちまほきき  
く山奥の命山に住居ありて母はか  
しづくは女に教へ樂器をたてしむる  
きりて入て雲よ棄てて夜まひ

かきつばたのふりかへりておのれをさすり  
は花の妙文を拜しきりて  
舞樂を養ひつづけたれ人の慰  
めむと 昔 西よむらひしてちまほきき  
く山奥の命山に住居ありて母はか  
しづくは女に教へ樂器をたてしむる  
きりて入て雲よ棄てて夜まひ

入勅使よ是とらへもつ可い  
縣乃山路の菊れ吹くえやむひる  
のむらひほきもあやむも入や  
せとまきあふよりこのかた  
たきよ

右之本者觀世大夫織部以章句  
真本令放行畢

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江八町

山本長兵衛



明治廿六年二月十七日印刷  
明治廿六年二月同日訂正出版  
明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢

東京市麹町區飯田町四丁目壹番地  
宮内省御用達

訂正者 觀世清麿

板權 所有

發行所 京都市上京區二条通御幸町  
兼印刷者 檜常之助



